

Chair's
Message



Selena Wilson
Canada

FIDIC 若手専門職各位

2012年～2013年の業績を振り返ると、若手専門職の、我が産業界の成長および改善への貢献はとても満足できるものであり、それは YPF にとって素晴らしい1年でした。

ソウル会議に続く我々の目標は、情報伝達および支援活動に重点的に取り組むことであり、FIDIC 若手専門職フォーラム運営委員会の懸命な働きと献身を通して、多くの分野で成功を収めました。ASPEC および GAMA 若手専門職フォーラムは成功裏に設立され、運営委員会メンバーは、地域の計画・構想の発展に向けて忙しく働いています。ASPEC および GAMA 会議に関する詳細情報は、今回の会報で参照可能です。

我々はまた、バルセロナ 100 周年会議とともに FIDIC YP 基準書の出版が発表されたことに興奮しています。この図書は、協会員やそれぞれの YP フォーラムの開始に希望を持つ若手専門職に情報や創造性を与えるために、YP フォーラム会員との連携により YPFSC によって立案されました。それはまた、情報交換および洞察の促進により、既存の YP フォーラムにアイデアを提供するものです。YP 基準書は我々のホームページから参照可能であり、地方の若手専門家団体の強化に有用な手段であることを見出すことを望んでします。

次なる節目は、2013年10月に始まる、我々の最初のオンラインセミナーシリーズの立ち上げです。我々は、若手専門職の調査結果に基づく、5つのオンラインセミナーシリーズを公表する予定です。テーマとしては、プロジェクト管理、企業の社会的責任、プロジェクト制御が含まれる予定となっています。詳細および登録情報はホームページを参照してください。

最後に、FIDIC 理事会員による、2013年9月18日のバルセロナ 100 周年会議で開催された YP の閉会夕食会への寛大なる寄付に対して、この機会に感謝を述べたいと思います。明日のより良い社会を構築することに対する信念は、若手専門職およびコンサルタント業界の成長への誓約に反映されることと思います。

以下各企業、団体に感謝の意を表します。

Chris Newcomb, Canada McElhanney Consulting Ltd.		Bisher Jardaneh, Jordan Arabtech Jardaneh Group	
Geoff French, UK URS Corporation		Alain Bentejac, France Artelia Group	
Jae-Wan LEE, Korea Sekwang Engineering		Exaud Mushi, Tanzania Norplan Tanzania Ltd.	
Kaj Moller, Sweden Sweco		KIZUNA, Japan YP Alumni and Young Engineers Forum	



Doyin Obikanye
Nigeria

FIDIC GAMA 若手専門職フォーラムの始動

2013年の4月、スーダンのハルツームでのGAMA会議の際に、ConrinthiaホテルにおいてGAMA若手専門職フォーラムは始動し、およそ40名の熱心な若手専門職が参加した。それは、FIDICアフリカ地域会員協会連合(GAMA)の創設21年目にあたり、これまでに最も多い若手専門職の参加となった。スーダン、タンザニア、南アフリカ、ガーナ、ジンバブエ及びナイジェリアからの若手技術職がこの会議に出席した。

若手の興奮は、若手専門職が、彼らがアフリカ地域における将来のそして次世代の産業界のリーダーであることを理解し、それを証明し始めたことに表されている。アフリカは、他の大陸と同様、社会基盤の開発に戦略的であり、また、今日会議に出席した若手専門職は、その未来が本当に彼らのもとにあることを意識づけられた。

2013年1月にタンザニアで開催されたFIDIC理事会において、FIDIC若手専門職フォーラム運営委員会の主導によりGAMA YPFが発足した。FIDIC運営陣は、GAMAやFIDICのような組織を通して、若手アフリカ人専門家の声を聴くことのできるフォーラムを行うアフリカの若手専門職を支援している。

2013年4月7日に行われた開始の式典は、Sudanese Engineering and Architectural Consulting Association (SEACA) YPFの支持を受け、彼らのYPFコーディネーターであるWisal M Awadによってまとめられた。



Wisal M Awad GAMA YPFの始動に歓迎の言葉を述べる

Adedoyin Obikanyeは、FIDIC YPF運営委員会及びAssociation Consulting Engineers Nigeria(ACEN)の会員であり、なぜGAMA YPFなのか?について発表を行った。彼女は若手アフリカ人専門家にとって、彼らが構築環境における次世代の産業のリーダーであること、また、今まさにアフリカの若者がこの産業を担うべき時であることを認識する必要があることを説明した。彼女は、若い世代に投資することを望む年輩の専門家のサポートがあれば、それは可能であると述べた。この大陸の進展は、ごく近い将来においては、かなりの部分がこのことにかかっている。そして、社会基盤の開発の将来は、今日のアフリカ人若手専門職の能力と知識にかかっている。



写真左：GAMA の若手専門職委員会について説明する Adedoyin Obikanye
写真右：FIDIC の GAMA 若手専門職委員会の発展を激励する FIDIC 専務理事 Enrico Vink

開会式には、数人のシニア専門家や FIDIC の若手専門職委員会の発起人であり、FIDIC 内における青少年育成の一番の促進者である専務理事が参加した。彼もまた、アフリカの若手専門職に各々の地域や世界中の専門家の間で地位を確立するよう激励するスピーチを行った。

若手専門職ネットワークが開会式のイベントを締めくくり、FIDIC・GAMA 会議 2013 の開会式セレモニーへと進んだ。

別の若手専門職のイベントでは、カピア連合の Ibrahim Buga に加え、ナイジェリアコンサルティングエンジニア連合（ACEN）のメンバーが報告を行った。Ibrahim は、「継続的なインフラへの架け橋としてのアフリカの若手専門職の発展」について報告した。また、ナイジェリアの総合プロジェクトマネジメントサービス社の Adedoyin Obikanye は、現在の調達政策および政策による若手専門職への影響について報告を行った。その報告では、アフリカの組織による若者への投資の必要性について強調していた。若手専門職は GAMA 組織の職員であることによってその調達政策に影響を受け、組織や社会が若者に投資しないことは、業界の将来にとって弊害となります。それゆえ、調達政策は、アフリカの若手専門職の能力向上を考慮するべきであると報告した。



Ibrahim Buga：アフリカの若手専門職の発展についての報告後

最後に、GAMA の若手専門職の発展に強く興味を示している各国出身の 8 人の若手専門職が、GAMA 若手専門職運営委員会を編成した。



運営委員会のメンバーは、ナイジェリア出身の議長 Adedoyin Obikanye、ガーナ出身の副議長 Francis Kofi Yankey をはじめとして、その他、ナイジェリア出身の Ibrahim Buga、ガーナ出身の Jane Naki Tetteh、ナイジェリア出身の Nasiru Danlami、南アフリカ出身の Jeshika Moonsamy Ramchund、スーダン出身の Wisal M Awad、ナイジェリア出身の Olusegun Adetunji である。

運営委員会は月に一度オンラインでの会合を継続して行い、彼らのビジネスプランを発展させてきた。この委員会の狙いは、GAMA コミュニティーにおいて若手専門職に向けた強く統一的な声明を続け、若手を成長させるためのフォーラムを提供しながら FIDIC 及び GAMA 会議の際に直接会い、国内外における表現を見つけ、世界各国の専門家との関係を築くことであり、将来の信頼できるアドバイザーや業界の指導者として、彼らが地域社会へ責任を果たすことを目的としている。



スーダンで開催された 2013 年会議に出席した数名のアフリカ人若手専門職達





Arash Emambakhsh
Iran

ASPAC YP フォーラムの再開

2012年9月、ICSE(イラン)YPFのYPフォーラムは、ASPAC-YPフォーラムの再開を提案した(ASPAC-YPは過去、2009年に発足したが一年限りの活動にとどまっていた)。

2012年、韓国・ソウルで開催されたFIDICの年次会合において、ASPAC-YPフォーラム再開が提案され、ASPACにおいて議長承認された。

これを踏まえFIDIC YPFSCイランのメンバーが、ASPAC-YPフォーラム再開(の報告)を趣旨として、タイ・バンコクで開催されたASPAC年次大会に出席した。これにより正式に実行委員会でASPAC-YPフォーラム再開を周知した。

研究、教育、ネットワーキングが、フォーラムから期待される主要な活動として提起された。

3月17日に、バルセロナに至るまでの活動を含む最初のスケジュールが、FIDICアジアASPACとFIDIC YPFSCの議長に提出され、これは、1週間ほどで受領者によって承認された。

計画に基づき、ASPAC議長が4月7日に候補者を募った。7カ国からの8代表は、各国のFIDIC会員協会によって指名された。

イランYPFの代表者と共にASPAC YPFSCを再始動するために、オーストラリア、中国、日本、インド(2人)、マレーシア、フィリピン、韓国が、自国の若手専門職らを指名した。

次に挙げる人々は、6月25日に開催されるYPFSC運営委員会の際、ASPACの議長により委任された人々である。

1. Arash Emambakhsh, (イラン)
2. Garrett Bray, (オーストラリア)
3. Zhou Sheng, (中国)
4. Takashi Matsuo, (日本)
5. Atasi Das, (インド)
6. Shah Izzni Talif, (マレーシア)
7. Patrick John R. Ramos, (フィリピン)
8. Sung Joon Park, (韓国)

Jomanah Albtouch (ヨルダン)もまた、アドバイザーとして委任された。

7月から8月にかけて2ヶ月間会議が開催され、運営委員会は次のような活動を実施した。

- ・地域ごとの、若手専門職経営プログラムの受講者のデータベースの準備
- ・地域ごとのYPMTP2013参加者を、公開討論へ招待
- ・ASPAC YPF や YPF の活動の紹介が書かれたピラの配布
- ・地域ごとのYPsを、2014年に開催される年に1度の会議へ招待



Noor Ghanameh
Jordan

事業の卓越性

はじめに

競争が激化した現代の市場では、品質が競合上の優位性を獲得する重要な要素となっている。現在、品質管理の実施方法は、ISO、シックスシグマ、EFQM（欧州品質管理財団）モデルやマルコム・ボールドリッジ・モデルなど多岐にわたる。

「事業の卓越性」の定義

品質の改善が、卓越した事業の出発点である。より優れたパフォーマンスを発揮し、本当の純利益の改善に繋がる全ての行動 - これが、卓越した事業の最も簡略化された定義である。この事例は、管理部門による企業内外の資産の巧みな組み合わせが、この事例として挙げられる。

過去数年にわたり、事業の卓越性を推進し、組織が現代の市場競争において勝ち残るための様々な手法が開発された。その中でも、最も一般的に知られているのが EFQM モデルとマルコム・ボールドリッジ・モデルである。

EFQM モデル

EFQM モデルは欧州品質管理財団が開発した手法である。欧州品質管理財団は、欧州の企業と組織が競争力を強化するための管理手法の開発を目的に、14名のCEOにより1988年に創立された。この手法は、組織の強みと、組織の全ての活動において、改善が必要な分野を客観的に測定するための、自己評価の枠組みを提供する事が特徴である。この手法では、卓越したサービスや製品を顧客や受益者、利害関係者に提供するために、組織が何をしているか、何が出来たかという点に着目している。

EFQM モデルは欧州で最も一般的な品質管理手法であり、業績を改善するために3万以上の組織が採用した実績を持つ。このモデルは「原因と結果」、「計画 - 実施 - 検討 - 対処（PDCA）」の概念と、卓越した組織の8つの原則に基いている。この8つの原則を以下に示す。

- 1) バランスの取れた結果を成す
- 2) 顧客への付加価値を創出する
- 3) 展望、創造性、誠実さで市場を導く
- 4) 工程を管理する
- 5) 人々を通じて成功する
- 6) 創造性と革新性を育む
- 7) パートナーシップを結ぶ
- 8) 持続可能な未来への責任を持つ

これらの8つの原則に基づき、5つの「実現要因」と4つの「結果」に構成されたより詳細なモデルが開発された。実現要因の基準は、組織の振る舞い、職員と資源の管理、戦略の立案、主要な工程の評価と監視に焦点を当てている。結果は、組織活動の成果に焦点を当てている。これらは組織の構成員と顧客の満足度、またより広いコミュニティと主要な成績指標を網羅している。このサイクルの実現には、業績の改善を実現するため実現要因の学習と改善が必要である。

EFQM モデルに基いた企業の業績評価を行うために、RADAR 手法が利用されている。RADAR 理論は、動的な評価の枠組みと強力な管理手法により構成され、

これらは組織の業績を問うための構造化された手法を提供する。RADAR 理論の実施のために、組織は以下の項目を満たす必要がある。

- ・戦略の一環として、到達目標を設定する
- ・現在および将来にわたり要求される成果を提供するために、統合された取り組みの方法を計画、開発する
- ・確実に実施するための組織的な方法を展開する
- ・開発した方法を、得られた結果および進行中の学習活動の過程の監視と分析により評価、洗練させる

ヨルダンにおける EFQM と事業の卓越性

ヨルダンは、事業の卓越性に到達するための主要な試みとして、民間部門の卓越性のためのアブドゥッラー王 2 世賞（1999 年）と、同政府機関賞（2002 年）を通じて EFQM モデルを採用してきた。

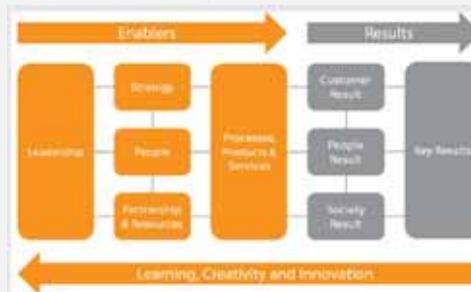


図 1: EFQM 卓越モデル

その他の事業卓越性モデル：US マルコム・ボールドリッジ・フレームワーク

このモデルは、米国の事業者およびその他の組織の商品・サービス提供における効果的な品質管理方法を実施するため、1987 年に第 100 回米国総会の決議により設立された。

これは EFQM モデルに酷似しており、「計画 - 実施 - 検討 - 対処 (PDCA)」の概念に基づき、要求される成果の定義、成果に到達するための行動と過程の定義および学習と改善のためのフィードバックの過程を通じて事業の卓越性に到達する事を試みている。

現在のモデルは以下の条件により構成される。

- 1) リーダーシップ
- 2) 戦略的計画
- 3) 顧客と市場への集中
- 4) 情報と分析
- 5) 人的資源への集中
- 6) 工程管理
- 7) 業績

参考文献：

1. EFQM Website
2. Radarise your Business for Success – EFQM 2010
3. <http://www.proveandimprove.org/tools/efqm.php>
4. http://en.wikipedia.org/wiki/Business_excellence
5. TQM and Business Excellence By Andreea Ionica, Virginia Baleanu, Eduard Edelhauser, Sabina Irimie



Simon Davidson
Canada

ACEC カナダ 2013 サミット 新たな YP (若手専門職) と政府との関係

連邦政府との関係 - 新たな YP による意見交換 -

カナダの新たな若手専門職ネットワーク (YPN) が結成されて 1 年になる。この新たなネットワークは、すべての州の YP グループを再編成するため、革新的なコミュニケーション基盤において発足した。既存の地方 YP グループの強化とは別に、YPN はニューブランズウィック州、プリンスエドワード島、ニューファンドランド島の 3 つの新たな地方 YP グループの設立を支援してきた。YPN は現在、ノバスコシア州を含む北方の 3 つの地域の YP グループ会員に向かっていく。

昨年末に、我々は国会議員であるケリー・リーチ博士と連携する機会を得た。リーチ博士は、カナダの若者と人材能力開発及び労働大臣との意見交換を担当する政務官である。彼女との最初の接触は、2013 年の連邦予算にコンサルティングエンジニアの若手技術者のビジョンを反映させるためであった。

我々の業界では、高スキル、高付加価値の仕事に投資することに対して、より多くの自信を持つことができたことから、安定性と予測可能性を与える長期的なインフラ計画への取り組みを示した予算となった。工学、科学、その他の技術分野におけるカナダの若者のキャリアを促進するための政府の取り組みは、我々の将来にとって歓迎する投資であり、カナダの長期的繁栄と競争力に寄与するであろう。

予算確保の後、我々はカルガリーの YP グループとリーチ博士の間で試験的に円卓会議を開催した。これらのセッションの目的は、カナダ政府がどのように若者と対話するかだけでなく、彼らが全国的能力開発強化を支援する手法に新しいアイデアをもたらすためのフィードバックを与えることでもある。議論の対象には、雇用創出、社会サービス、ポリシーの変更、市場における将来動向が含まれていた。

カナダの主要産業の繁栄を維持するための、迅速かつ最も効率的な方法であると相互に理解されるよう、今後数年間、YPN は連邦政府とのこのユニークな意見交換の試みを継続していく予定である。



ACEC カナダ 2013 サミット、ルイーズ湖 (アルバータ)

この2013年のACECサミットは、予想外の自然災害による困難な状況のなか、会議の成功に向け創意工夫を凝らし最大限に尽くした実行委員会および参加者の記録として、永く記憶に残るものとなるだろう。



会議の前夜、カルガリーは100年に一度の規模の大洪水に見舞われた。180mm以上の雨が山々に降り注ぎ、その雨水のほとんどはカルガリー市街地を流れる主要河川のひとつであるボウ川を流下した。この雨により多くのインフラが浸水し、橋の崩壊や土砂災害による道路の遮断等の被害を受けた。そして、これらの災害によって、アルバータ州の中心部では非常事態宣言

がなされた。また空港から会場への交通機関も遮断され、外部からの参加者と講演者のうち1/4以上が会議に参加できない状況となった。関係者全員がこのような状況に動揺したが、ACECスタッフと参加者は会議を成功させるために最大の努力を払った。

今年の会議では、YPNはカルガリー在住の若手専門職向けにワンデイツアーを開催した。初日は著名な施設であるChateau Lake Louise浄水場へのテクニカルツアーから始まり、その後YPフォーラムとYP円卓会議が行われた。なお悪天候により、ツアーに同行予定だったACECのエンジニア、YPナショナルフォーラムの参加者の一部、およびスペシャルゲストのDr. Kellie Leitchはこれらのイベントに参加できなかった。このように多くの困難の中、私たちは調整を重ね、でき得る限りの対応を行った。

ツアーは朝の8時からであったが、到着した20名の若手専門職のためにほとんどのYPプログラムを再調整しなければならなかった。幸いなことに、この浄水場を設計したエンジニアであるJackie Mykytiuk氏からのプレゼンテーションが実現し、このようなユニークな浄水場を設計・施工するにあたっての挑戦などについての発表が行われた。その間に私たちは代わりに施設と貯水池を案内してくれるエンジニアを探し、なんとか呼び出すことができ、ツアーは素晴らしいものとなった。



前年にかけてのYPN内部でのコミュニケーションレベルが非常に高かったこともあり、「主要メンバーの不在」といった困難を乗り越え、貴重な情報をYPフォーラムを通して発信することに私たちは成功した。



YP 円卓会議についても少し調整が必要であった。ゲストスピーカーが参加できなかったために、まったく新しいテーマに変更し、商工会議所の副所長である Warren Everson が会議に参加しているということを最大限利用することにした。彼はその日の円卓会議前のセッションで、「競争

力を妨げる 10 の障壁とコンサルティング・エンジニア業界への影響」という主題で基調講演を行ったところであった。YP セッションで私たちは、この主題についてさらに掘り下げることに決め、これらの障壁の若手専門職への影響と、若手専門職が全国的組織としてどのようにこの障壁を乗り越えるための助力をし、カナダの国内社会に貢献できるかを議論した。この議論は非常に活発なものとなり、その場にいた皆が来年は同じ主題についてさらに尽力するべきだという結論に至った。

次の日は「今日の CEO から明日のリーダー達へのキャリアアドバイス」というタイトルで CEO のパネルディスカッションを開催した。ベテランの技術者もこのパネルディスカッションに参加する予定だったが、前述のような状況で欠席しなければならなかった。私たちはこのベテランの参加者たちに YP セッションに参加してもらうように手配した。これによりベテランならではの洞察が YP セッションにもたらされ、若手専門職にとって非常に意義のあるイベントとなった。このセッションで議論された「成功へのカギ」として以下のようなものが含まれる。「自発的に参加し、ネットワークを広げなさい」、「人間力を鍛えなさい」、「自分にとってのメンターを見つけなさい」である。

最後のセッションも天候によりキャンセルせざるを得なくなったが、私たちはここで「主客」を入れ替えることに決め、壇上に若手専門職を迎えて「これまでの経験と、これからのコンサルティング・エンジニア業界に対する考えとビジョン」についてのパネルディスカッションを開催した。その後はパネリストと聴衆による活発な議論が展開された。

幸運にも今回の Lake Louise での会議に参加することができた人たちにとっては、そのクオリティの高さと付加価値という点で長く記憶に残るものとなったのではないかと。革新的なアイデア、強靱な組織力、さらには実行委員会、参加者、若手専門職の柔軟性がなければ今回の会議は目も当てられないものになっていたことだろう。

会議を成功に導いたこれらの 3 つの要素は、コンサルティング・エンジニアを私たちの社会にとって最も価値ある「資産」とならしめているものでもあると言える。高い技術力を持った専門家たちがいなければ、より良い未来を創りだしていくことはできないだろう。

上にも述べたように、革新的なアイデア、強靱な組織力、さらには実行委員会、参加者、若手専門職の柔軟性がなければ今回の会議はまったく違ったものになっていたに違いない。この場を借りて ACEC カナダのスタッフ、講演者の方々、Fairmount ホテルのスタッフ、若手専門職とベテラン技術者の皆様にお礼を申し上げたい。この方々の努力によって会議が素晴らしいものとなり、コンサルティング・エンジニアが私たちの社会にとって最も価値あるものであるということを見ることができた。

このサミットに参加することができた方々は、ここで提示されたきっかけや素晴らしいアイデアをもとに、より良い未来を創り出していくことができるだろう。

Simon Davidson, P.Eng.
Roche Ltd, Consulting-Group

Communication
Chairperson
FIDIC YPFSC



Selena Wilson
Canada

FIDIC YPF を広げましょう！

皆さんもこの若いダイナミックなグループの一員になって、最新版のニュースレター、イベント（例えば FIDIC 会議とトレーニング機会）に関する情報を入手しませんか。

私達 FIDICYPF グループはあなたの国の YPs が何をしているか、そして、彼らとどのように関わっているかを調べています。下記のアドレスから YPF ホームページにアクセスして情報をお寄せ下さい。

登録頂いた方には、ニュースレターやインフォメーションを送付致します。
あなたの情報の更新もお忘れなく。

FIDIC に関する情報はこちらから。

www.fidic.org

更に詳しい情報が必要な方や私と直接コンタクトを取りたい方は、下記のアドレスへ直接ご連絡下さい。

FIDIC.YPF@fidic.org

Selena Wilson
FIDIC YPF 運営委員会 議長
コミュニケーション担当責任者

あなたの国でも YPF を作りましょう。

FIDIC YPF と各国の YPFs の活動が気に入ったら、今度はあなたの国の番です。あなたの国の FIDIC 会員協会（MA）を通して、YPF を組織するのが最もよい方法です。しかし、そのような協会が存在しない、あるいは、あなたの国の MA が YPF を持ちたくないならば、あなた自身で YPF を始める方法を一緒に考えるために、私達に連絡を下さい。FIDIC を通して、私達はあなたの国で YPF を組織するために協力します。あなたに必要なのはエンジニアリングに対する熱意だけです！ その熱意からあなた自身であなたの YPF が何を代表するかを決めていきます。何にフォーカスをあてましょう？それは若手専門職のトレーニングでしょうか？若い世代がエンジニアリングに興味を持つようにすることでしょうか？それとも仕事仲間を集めた社交界のようなもの？または、これら全てですか？

FIDIC YPF として、私達はあなたの新しい努力を支援するためにできるだけのことをします！

連絡は：FIDIC.YPF@fidic.org



NEWSLETTER

YOUNG PROFESSIONALS FORUM
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS

FIDIC YPF News Letter 2013 年 9 月号

下記の方々に翻訳を協力いただきました。
ご多忙の中大変ありがとうございました。

(順不同・敬称略)

矢神 卓也	(株)建設技術研究所
花原 英徳	(株)建設技術研究所
笠瀬 明日香	(株)建設技術研究所
高樋 直人	(株)日水コン
赤坂 和俊	(株)日水コン
安達 理央太	(株)日水コン
門司 崇宏	(株)オリエンタルコンサルタンツ
白石 英巨	(株)オリエンタルコンサルタンツ
手塚 誠	(株)長大
長谷川 正	(株)長大
澤部 純浩	(株)長大
三好 孝明	(株)長大
中島 隆志	(株)建設技研インターナショナル
原田 拓也	(株)建設技研インターナショナル
満倉 真	(株)建設技研インターナショナル
甲斐 慎一郎	(株)アイ・トランスポート・ラボ
北野 知行	日本工営(株)

取りまとめ
AJCE 技術研修委員会 YP 分科会
担当 北野 知行
日本工営(株)